

中国サッカーの停滞と国家主導型スポーツ体制

—スポーツ政策の歴史的変容と制度構造からの分析—

LI Xuliang

1. 研究目的及び研究方法

本研究は、中国男子サッカー代表の競技力低迷という現象を、単なる技術・精神論の問題としてではなく、国家主導型スポーツ体制(挙国体制)とサッカーという競技の発展論理との間に存在する制度的緊張関係として捉え直すことを目的とする。とりわけ、清末から現代に至る中国スポーツ政策の歴史的変容を分析軸とし、政策理念・資源配分・統治構造が中国サッカーの発展経路と競技力形成にいかなる影響を与えてきたのかを明らかにする。

研究方法としては、第一に、中国政府が公布したスポーツ政策文書、サッカー改革関連政策、行政通達、機関紙資料、先行研究を対象とする文献分析により、スポーツ統治構造の制度的特徴を整理した。第二に、プロリーグ制度、協会の組織構造、ユース育成制度、国家代表の競技成績、FIFA ランキング等の統計資料を用い、政策変化と競技力推移の対応関係を検証した。第三に、日本および韓国のサッカー制度形成の経験を参照し、中国サッカーの制度的特質を相対化する比較分析を行った。

2. 研究内容及び研究結論

本研究は、序章及び五つの章から構成される。序章では問いの設定、先行研究の整理、研究目的と方法を提示した。

第一章では、中国におけるサッカーの導入と普及過程、ならびに初期の競技力形成を歴史的に検討した。香港を中心とする植民地空間が初期受容の窓口となり、サッカーが都市社会に浸透していく過程を跡づけた上で、国際大会参加や戦時期の社会状況が中国サッカーの性格形成に与えた影響を示した。

第二章では、建国以降の中国スポーツ政策の変遷を、政治体制・国際環境・経済体制改革と結びつけて分析した。毛沢東時期の大衆体育・国防重視の方針、政治運動下での停滞、改革開放後の体制再建と市場化・プロ化の進行、さらに「金メダル至上主義」や「スポーツ強国」目標の下での資源配分の偏りを整理し、サッカーが長期的育成・地域基盤の形成を要する競技であるにもかかわらず、政策上の優先順位が揺れ動いてきた点を明らかにした。

第三章では、中国サッカー競技力低下の構造的要因を、制度・政策・組織の側面から整理した。具体的には、政府主導の政策決定と政治優位の構図、行政主導を温存したまま進められる「偽りの市場化」、挙国体制に由来する短期成果の志向が、協会ガバナンスの不透明性やプロリーグの歪み、ユース育成の狭さ、文化的基盤の脆弱性として現れることを示した。

第四章では、2015年に策定された「中国サッカー改革発展総体方案」を取り上げ、普及・青少年育成・ガバナンス改革を同時に進めようとする政策理念の意義を評価するとともに、実施過程において行政主導の構造が根本的に変化せず、改革が既存制度の枠内にとどまる限界を指摘した。

第五章では、日本および韓国のサッカー発展経験を参照し、中国サッカーの将来的可能性を検討した。日本における代表強化・育成・普及の三位一体的な制度設計、地域に根差したクラブ文化の長期形成を参照しつつ、中国では上からの動員型改革に依存し社会的参加の回路が十分に構築されていない点を明確化した。

以上を総合すると、中国サッカーの競技力低下は、国家主導型スポーツ体制とサッカーの発展論理との間に存在する構造的緊張によって生じたものであり、単発的な改革によって解消される問題ではない。本研究の意義は、中国サッカーを中国現代史およびスポーツ政策史の中に位置づけ、スポーツ社会学的視座から制度構造を体系的に分析した点にある。

3. 今後の課題

第一に、第一章の歴史分析は史料制約の下で全国的・象徴的事例に集中したため、都市・地域社会レベルでの差異や主体（プレイヤー、指導者、観客等）の経験を十分に再構成できていない。今後は地方史研究やオーラルヒストリー等の手法を導入し、よりミクロな視点から近代中国サッカー史を再検討する必要がある。

第二に、第二章は主に中央政府レベルの政策理念と制度設計に焦点を当てたため、地方政府による解釈・運用の多様性や地方間格差を十分に論じることができなかった。今後は省・市レベルの事例研究を通じ、中央-地方関係の観点から政策実践を検証することが課題である。

第三に、第三章の構造分析は制度的制約の整理に主眼を置いた結果、選手・指導者・クラブ経営者等の行為主体がどのような戦略的選択を行ってきたのかという動態的側面の分析が限定的であった。今後は現場レベルの質的調査を加え、制度と行為の相互作用をより精緻に描く必要がある。

第四に、第四章で扱った改革政策の効果は長期的に現れる領域が大きく、本研究は中間的評価にとどまる。定量データと質的調査を組み合わせ、改革の実効性を継続的に検証する実証研究が求められる。

第五に、第五章の比較は日本・韓国を中心としたため、政治体制の異なる国家主導型スポーツ体制との比較が十分ではない。また、本研究は男子サッカーに分析対象を限定しており、国際的な成果を上げてきた中国女子サッカーとの比較は今後の重要課題である。これらの比較分析は、政治体制とサッカー発展の関係をより普遍的に検討し、拳国体制の有効性と限界を精緻に評価する上で有益であろう。